



2009年11月8日(第133号)
発行所 カトリック高松司教区 広報委員会
〒760-0074 高松市桜町1-8-9
TEL 087-831-6659 FAX 087-833-1484
Email
教区:catholic-takamatsu@takamatsu.catholic.ne.jp
広報:tk-koho@mxl.netwave.or.jp
生涯養成:yosei@takamatsu.catholic.ne.jp
WEB http://www.takamatsu.catholic.ne.jp/

カトリック高松教区報

主な記事

- 2面 司教館の窓から、高松教区の兄弟姉妹たち、ひと、典礼奉仕
- 3面 青年ローマ巡礼 諸委員会紹介
- 4面 医療のともしび、教区・司教スケジュール 書籍紹介

司祭年を記念して② 信徒と小教区の回心の道

「二人または三人がわたしの名によって集まるところには私もその中にいるのである」(マタイ18:20)。

小教区を再生すべきだという声がどの国でも聞こえてきている。パウロ六世が言われたとおり、「現代において人々は教える人よりも証しする人の言葉を聞きます。あるいは、証し人になっていく先生だけに従います」。小教区は、個人主義や制度に対して抵抗を感じる

小教区再生を目指す

高松教区財務担当司祭 サンティアゴ・サイズ



現代人に、どう対応しているだろうか？

司牧的にも、運営的にも、小教区の再生が必要ではないかと思う。教会における聖職者の不足、信徒の高齢化、小教区運営の難しさ、教会運動と小教区との対立(行き違い)、また忙殺的社会的激しい変化と動き、レジャー志向の増加などに小教区はどう対応しているだろうか？

「二人または三人がわたしの名によって集まるところには私もその中にいるのである」(マタイ18:20)。

仙台教区から氏家仁神父 呼ばれていきます。いつも

九月より桜町教会の協力司祭として任を受けている事になりました仙台教区の氏家仁神父(四十七歳)です。出身地は宮城県の仙台です。



気軽に声掛けを

今回生まれて初めて四国に足を踏み入れました。右も左も分からない状態から二年間お世話になることになりました。観光名所などは知識としては少しは知っておりました

「・・・呼ばれていきます。いつも・・・」 確かな聖霊の導きに従い歩んでいきたいと願っています。しかし、一人では曲がってしまう事が多々あります。献身的な信徒の皆さま方と修道者、司祭の方々と共に歩ませていただければ幸いです。司教様を中心としたキリストの教会共同体の一員として主キリストを伝える事が出来ればと願っております。若くはないですが「明るく、元気に、爽やかに」物事にかかわってゆきたいと思っています。どうか、広い信仰の目で指導とお祈りをお願い致します。本当に気軽に声を掛けてくださいます。よろしくお願い致します。

「教区民の集いin香川」延期

インフルエンザ流行に配慮

溝部信司教は「教区民の集いin香川」の延期を決定。教区内の司祭・修道者・信徒に向けて次のような書簡を送付した。教区の諸所から新型インフルエンザが猛威を振るっている知らせが届いています。十月十八日に開催予定されている「教区民の集い」では、限られた空間に長時間座っている状況が予想されるので、どのように考えたらよいかを疑問視されました。司教評議会、宣教司牧評議会に諮ったところ、予定通り行うべきであるという意見と控えるべきとの意見の二つに分かれてしまいました。後に司教の決断に任せることになりました。わたしは教人の人に相談し、次のように結論を出しました。

- ① 十月十八日(日)に予定されている「教区民の集い」は延期する。それをいつにするかは、司教評議会と宣教司牧評議会にかけて決定する。
 - ② しかしすべてを無にしないために、代わりに小教区評議会議長(主任司祭)・議長(信徒会長)並びに地区長の集いを企画し、教区の方針を理解决せ、教区に徹底させる方法を共に考える。
- 以上の通りですので、「教区民の集い」を準備していた方々には感謝を申し上げると共にお詫びを申し上げます。教区民の皆様方の上に、神の豊かな祝福をお祈り致します。
- (九月二十四日付け書簡)



高松教区典礼委員会委員長 三宅克也

各小教区に発足しましょう 宣教チーム典礼ミサでの声掛けを

脳裡をよぎります。カトリックは普通であって、不変であってはいけません。誤解されたいけないので繰り返しますが、新しい典礼を目指すという事ではありません。キリストを通して、新しい自分を発見できる典礼を、信者の立場として常にイメージしていきたいのです。私は十二年間アメリカでミサに与りましたが、ミサ後に声を掛けられることはありませんでした。一度に千人以上のミサを、主日は何回もやるのですから顔も覚えられないのは当然かもしれません。高松に来て、いろんな人にミサ後に声を掛けられます。子どもミサのあと、「いつもギターをありがとうございます」の一声でとても嬉しくなりました。知り合いだけではなく、いろんな人への声の掛け合いがあれば、もっと教会に溶け込めるきっかけになると思います。とくに、はじめに教会で出された方、久しぶりの方には、是非お声をかけて下さい。高松教区の皆様には、まずは各小教区のミサで声掛けができる「宣教チーム典礼」を発足させて頂ければと願っています。ミサの準備からミサ後まで、どうぞよろしくお願い致します。

はばたき

八月四日、九日の間、ネパールに滞在した。学生五名を引率しての研修旅行だった。カトマンズ盆地にある世界遺産地区の見学を交えながら、ストリートチルドレンへの支援を行っているNGO、法科大学院、弁護士会等を訪問し、引率した学生も参加して、いろいろな交流活動や意見交換などを行った。

学生たちは、数々の小さな不便さやトラブル(交通量は多いのに信号や横断歩道がほとんどない、シャワーが壊れる、物売りや物乞いにつきまといわれる、飛行機の出発が一時以上遅れるなど)に戸惑いを見せつつも、時にはネパールのゆつたりとした時間の流れを楽しみ、また時には法科大学院生の使命感の強さや能力の高さに驚くなど、今後の成長や学びに結びつく体験を重ねてくれたようだ。

ネパールでは二〇〇八年に王制が廃止され、今の正式国名は、ネパール連邦民主共和国である。現在、新憲法の採択作業が行われているが、日本でも時々報道されているように、マオイストと他の政治勢力との間にある対立や不信感には解消せず、先行きは不透明だ。弁護士会での意見交換の際、会長から「あなた専門分野は平和維持活動だそうだが、そうした観点から見て今のネパールの政治状況をどう評価するか」と問われた。これに対し、私は次のように答えた。

「ネパールにおいて、イラクやアフガニスタンまたスリランカで見られた大規模流血が生じていないことに深い関心を持っている。そうした事態が生じていない理由として、『多様性を受け入れる心』と『自分に害を与えたい者や許そうとする姿勢』が挙げられると思う。今回の短い滞在を通して、この二点がネパールの人々の間にしっかりと根付いていると感じた。どちらも、言うのはたやすいが、実行するのは往々にして英雄的な努力を必要とする。事実、冷戦終結後とくに九・一一同時多発テロ以降、世界の動向はその反対となっている。ネパールが現在の政治問題を平和的に解決することは、世界の平和にとって貴重なメッセージを発信することになる。」

高松教区の兄弟姉妹たち ⑥



1. 聖マルグリット・ブルジョワとは？

コングレガシオン・ド・ノートルダム修道会の創立者。1620年フランスのトロワに生まれ、1653年フランスの植民地だったカナダのヴィル・マリー（現在のモントリオール）に教師として単身で移り住みました。

2. 修道会ができたのはいつ？

1658年にヴィル・マリーでの最初の学校が石造りの家畜小屋だった建物で開校され、フランス移民の子どもと先住民の子どもと一緒に学ぶようになりました。その時からマルグリットを手伝いたい女性が集まるようになり、修道会設立に繋がりました。マルグリットは、エリザベットを訪問した聖母マリアのように、教育によって、キリストとその愛を、人々にもたらしたいと望みました。そのために当時の修道会の形態とは異なった、禁域がなくどこへでも出かけていく事が出来る修道会を設立しました。この新しい形態の修道会として正式に教会から承認されたのは1698年6月でした。

3. コングレガシオン・ド・ノートルダムのインスピレーション（霊性）とは？

聖母マリアのご生涯、特にイエス・キリストをエリザベトのもとに運んだ「旅する」マリアと聖霊降臨前後、初代教会と共

に過ごされたマリアに倣うことです。

4. 日本での宣教は？

1932年福島県福島市に5人のカナダ人姉妹が到着しましたが、なかなか教育活動する許可はでませんでした。1938年やと雛菊幼稚園を開園できましたが、1941年12月の開戦と同時に閉鎖されました。福島修道院は外国人捕虜のための収容所になり、CNDの姉妹は会津若松の無原罪聖母宣教女会修道院で監禁され、戦争を過ごしました。戦後、戦災孤児20人を福島修道院で預かった関係で、学齢に達していた16名のために小学校を開校しました。現在管区本部は東京調布にあり、支部修道院は福島市(2)、北九州市(2)と高松市(Sr. ギリス)にあります。現在の日本管区全姉妹は73人です(日本人66人、カナダ人7人)。カナダ、アメリカ、日本、ホンジュラス、グアテマラ、エルサルバドル、カメルーン、フランスで教育活動をはじめ、いろいろな場で聖書、公教要理、祈りを信者や未信者と共に分かち合って宣教しています。

(聖マルグリット・ブルジョワの言葉)

「愛する娘たちよ、宣教に出かけるとき、失われているイエス・キリストのおん血の滴を集めに行くものと思いなさい。派遣される姉妹が宣教に赴くのは神のみこころであり、自分は神と共に歩いていくのだ、この使命を果たすことによってすべてを賜った神にご恩返しができるのだと思うなら、どんなに幸せになるでしょう。ああ、この使命はむずかしくて困るなどは、決して思わないでしよう。」

司教館の窓から 司教のこころ

民主党政権が生まれ、何かが活発に動いている。見直し、再生がそのキーワードになっている。それに浮かれて何かが変わると思うのもまた不思議なものである。冷めた目で見れば、何も変わらないのかも知れない。しかし、時代は何かが変わることを要求している、それに呼応するかのように変革が叫ばれるとその気になる。「チェンジ」を掲げたオバマ政権に似ている。問題はその気運の中で、私たちが出来る事は何かを考える事である。教会でもそろそろ「チェンジ」が叫ばれるものではないか。



『典礼奉仕』のために

稲毛利之師

今回は「典礼と言葉」について考えてみましょう。言葉というのは「コトノハ」から来ている事はよく聞かるところでしょう。コトノハは「言の葉」であると同時に「事の端」です。いずれにしても日本語の言葉というものは、コトノハ由来の事の一部のようなものです。私たちがはらはらと落ちる木の葉を見るとき、「何事が起きている。」「風が吹いている。」と知ることが出来ます。今、起きているコトノハ出来事を現すのがコトノハです。典礼もこのようなものです。典礼は決してお祭りのようなただのイベントではありません。単なる何か大切な情報の伝達でもありません。この世界に何事が起きている場です。神の出来事が新しく表れる場なのです。神のコトノハは本質的に神の出来事に結び付いています。神は言われた。「光あれ。」こうして、光があった。イエスは大声で叫ばれた。「ラザロ、出て来なさい。」すると、死んでいた人が、出て来た。マリアは言った。「お言葉どおり、この身に成りますように。」そして私たちの祈りは、「イノリに乗り」、神の息や風に乗ることです。ほら、ご覧なさい！神の出来事、神の息に吹かれ、



仕える典礼 ⑤

神の風に乗ってひらひらと舞っている葉っぱたちの姿。これこそ典礼のイメージです。ですから私たちは、特に典礼において、言葉を大切に扱わなければならない。神のコトノハであればなおさらです。日常生活での体験が教えてくれることは、言葉は横糸と縦糸で紡がれた織物のようなものです。たとえば、一人で夕陽を見ている時の沈黙、朝もやの中での静寂など、これらの様々な体験が横糸のように記憶として紡がれます。言葉が出る時、この記憶・沈黙が言葉を通して現前します。また、言葉を語っている時、ふと偶然に気付くことがあります。今、全く新しいコトノハに出会っている。何者かが私を通して語っているというように。或る舞の達人は自分と違う何者かが舞っているという体験を口にします。今しか与えられない、僥倖というしかない出会いの驚き。これが言葉についての縦糸です。この横糸と縦糸が紡ぎ合って織りなす、或る出来事の現前こそ、言葉なのです。神のコトノハの場合、この体験や記憶がまったく新しく生まれ変わるのです。最後に昔の日本人のことをお話ししましょう。平安貴族は和歌を詠っていましたね。私たちはこれを趣味かなにかのように誤解しています。彼らにとって歌を詠うとは、コトノハの力によって生活の質を向上させ、天下国家を動かすという、しごく壮大なことだったのです。さあ、皆さんもミサに参加して日本をそして世界を動かしてみませんか？マリア様のように！！



ひと 渡邊 真さん



カトリック四国会館一階から地下には、さきに震災被害にあい、倉庫に眠っていた神戸山手教会のステンドグラスを復活させ、そして現在はその三期目の制作に携わっている。仙台では三月に誕生したばかりの福音(ふくね)ちゃんを愛情いっぱい育てながら家を守っている奥さんが、真さんの帰りを待ちわびる日々でもある。真さんには一つ気がかりがある。それは幼い福音ちゃんが父親である真さんの顔を忘れてしまおうのではないかと。仕事の合間にも携帯の待ち受け画面で福音ちゃんの微笑む顔を覗くことしきり。そんな中、大きな夢は聖堂にある。遡ること三年前、司教館四階チャペルのステンドグラスを皮切りに、今春

ひたすら 聖堂ステンドグラス 制作に打ち込む

という聖堂に神への賛美のステンドグラスを遺すことだという。文責 谷口広海

わたしが初めて出会った司教は、片田舎の小さな幼稚園の園長でした。「しんぶさま」なる黒服の大きなおじさんは、幼い私にはなかなかなじめない方でした。時が流れ、私が幼稚園教諭を志すようになった時、教育実習を快く引き受けて下さり、当時のままで、少しお年を重ねられた神父様に迎えられるようになりました。たくさん勉強させて頂いているうちに、幼いころには知らずにいた神父様の幼児教育にかける情熱や、子供達に対する深い愛情を垣間見たように思います。その後、縁あって、神父様の下で働かせて頂けるようになると、いっそう感じるようになりました。職員には厳しいところもありましたが、子供達と園庭でサッカーをしたり、降園時には子供達ひとりひとりと握手をして笑顔で家庭へ送り出した。又、夏にかけて、園舎の廊下にあるつばめの巣からヒナが落ちると、脚立に上りそと返してあげたりと、

わたしが出会った司教 親しみに満ちたおじちゃん

そそいだ神父様と共に、子供達にたずさわる仕事が出来た事は、私の宝です。そしてその精神は神父様がかわった人達の心にも脈々と息づいています。イエス様のあかしの愛をあかして下さったのだと思います。二〇〇三年、新園舎が完成しました。園児の成長を今も見守り続けて下さっていることでしょう。

長尾聖母幼稚園
保護者会役員 宮下知澄

若い力

ローマ巡礼の旅

毎晩した分かち合い～共感・感心・歌で一つに
香川県丸亀市 三木みどり

9月6日から1週間、溝部司教様とともにローマ巡礼の旅に参加させていただきました。

私だけ未信者で、一緒に行く青年たちは全員知らない人。最初はすごく不安でしたが、みんなすごくフレンドリーでとりあえず一安心。しかし、ローマの修道院に着いてミサが始まると、みんな一気にお祈りモード。数回しかミサに行ったことのない私は、独りあたふたしながら少し孤独を感じ、やっぱり私は信者のみんなとは違うんだと思ってしまいました。でも、みんなと宗教やいろんなことについて話をしていると、同じことを感じていたり、疑問に思ったりしてました。それを聞いて、そんなに自分と変わらないかと思えてすごく嬉しかったです。そう思えるようになったことが旅に参加して一番変わった所かもしれません。

この旅で、また絶対帰ってきたい、できれば住みたい!と思ったのが、アッジでした。街全体がピンクっぽくてやさしく、平和で包まれている感じ。幸せという感情で満たされ、ここでならストレスフリーな生活が送れそうな気がしました。毎晩した分かち合いや、たくさん歌を歌ったことが私にとってすごく良かったです。みんなと感じたことを共感したり、自分が考えていなかったことを他の人が考えていて、それに感心したり、歌でみんなが一つになったり。それってすごくステキなことだなって思いました。きっと普通の観光なら、ただ見て終わりだったと思います。でも、今回の旅は、いっぱい考えたり、感動したりしました。みんなではしゃぐ時にはワインを片手に思いっきりはしゃぎ、真剣になる時には真剣になる。そのおかげで、この旅がより中身の濃いものになったと思います。こんなすばらしいメンバーに出会えて、すばらしい経験ができて、私はすごく幸せ者だと思います。

思い出ぎっしり



この旅に関わってくれた司教様、ブラザー八木、シスター佐々木、ローマのシスターたち、両親、すべての人に感謝します。グラツェ!!

信仰を強めたいと実感

中島町教会 野村 愛

私は、青年11名とシスター佐々木、ブラザー八木、溝部司教様の計14名で9月6日～13日までイタリアに巡礼に行きました。今回の巡礼ではローマ到着翌日から4日間いろいろな場所を巡り、毎日その日感じた事を分かち合っていました。その分かち合いでは自分では考えも

しないような事を同世代の参加者から聞くことが出来、とても意味のある分かち合いをすることが出来ました。また、他にもローマ大学の学生の方と交流する機会もありました。この交流で私は今まで、イタリア人は信仰が強い人が多いのだと勝手に思っていました。しかし、実際は半分程度の人しか信仰を持っていないということを知りました。そしてその時にローマの若者の意見で、信仰を持つことは周りの人は関係なく、自分がしっかりしていることが大事だ、とありました。私は今まで、日々の大学生活で無宗教者に囲まれながら自分の信仰を強めていくことは難しいと思っていたので、その考え方が大きな間違いで、さらに環境に甘えた考えだったと思いました。また、信仰を強めるも



のは経験だという意見もあり、今まで私は青年の活動に参加していなかったの、参加しないことで同時に信仰を強めるきっかけも失っていたのだと気付かされました。けれど、この巡礼に参加することで、以前より信仰を強めたいという考えが生まれたことも実感することができました。このように、同世代の若者と1週間、様々な場所へ巡り、日頃考えないようなことを毎日考え、そして分かち合う事で様々なことに気付かされ、視野が広がり、沢山のことを学ぶことが出来ました。

今回の巡礼は様々な方から協力していただき、成り立つことの出来た巡礼でした。溝部司教様、ドミニコ会シスター、シスター佐々木、ブラザー八木、土屋神父様、そして皆様。本当にこの巡礼に参加できたこと、そして学びあるものにでき無事に終わることが出来たことに感謝致します。ありがとうございました。



「教区民の集い」のための演劇集団「KAGAWA」

番町教会 河合まゆみ

話は突然やってきました。夏休みのある日電話を取ると、桜町の中越さんからでした。「今度劇をやるので出てほしい」との事。降ってわいたような話に考える事もせず「分かりました」というような答えをしたように思います。きっと、通行人か何かであろうと軽く考えていた私に、中越さんは「今回の劇にそういうのはない!」とはっきりいわれ、返す言葉がなくなってしまいました。いざ、練習が始まってみると、これが本格的で、まず二本の割り箸を口に挟み「ハッハッハ」とか「ポッポッポ、ハトポッポ」など大きな声で発声し、のどの調子

ポッポッポ、ハトポッポ

を整えます。続いて台本を使った読み合わせを一度のペースでやった後、本番さながらの立ち稽古を何度も繰り返して来ました。私としては、時間的余裕のある時期と、これが最後という気持ちで臨んでいたのだけれど、他の皆さんの真剣さや真面目さ、セリフの一言一語を大切にされている態度に感動し、頭が下がります。初めてお会いする方々とも打ち解けて話せるようになり、学生時代を思い浮かべたりしています。劇の時間はそんなに長いものではないけれど、観て下さる方々の心に深くしみこむ事が出来そうですように祈りながら、最後まで演技していきたいと願っています。

高松教区諸委員会紹介

今号から高松教区諸委員会の紹介を掲載します。教区内の各委員会についての理解を深めて頂けたら幸いです。

生涯養成委員会

二〇〇六年にシスター・メリー・ギリスを委員長として発足した「生涯養成委員会」は三年半を経て、今までの活動を振り返りながら前進しようとしています。どの計画に関しても意識的に三つのことを基準にする必要があります。それは教会全体、日本の教会、そして教区の方付けです。特に教区がこれから三年計画をもって取り組んでいくこととしている「宣教会」へ積極的に協力し、また参加していくことは第一の務めと認識しています。



1. 教会全体

二〇〇八年六月から今年の六月まで「パウロ年」と定められていました。そのために

☆ 四名の講師による講演会(和田神父、朴牧師、鈴木神父、溝部司教)

☆ 毎週行う講座「パウロの手紙を読んで」(担当・浜口末男神父)

を企画しました。地区によっては「協力宣教司牧」の一環として、月一回各小教区でパウロについての講話を行いました。

又、教皇ベネディクト十六世の回勅二〇〇六年「神は愛」、二〇〇八年「希望による救い」を学びました。二〇〇九年にはどのようにして「司祭年」を祝うか、検討中の課題が残っています。

2. 日本の教会

この三年間で一番大きな出来事は二〇〇八年十一月に行われた列福式でした。列福式二年前、教区の行事として徳島でのシンポジウム「足利将軍・阿波公方の未裔殉教者ディオゴ結城神父の生涯」をスタートし、

☆ 殉教者についての研究者四名(溝部司教、古巣神父、川村神父、シスター片岡)の講座

を設けて、列福式参加のための共通した心の準備ができました。

3. 教区の歩み

高松教区の優先課題である「協力宣教司牧の推進」「青少年宣教司牧の活性化」「召命」について、信徒として司教、司祭、修道者と力を合わせ、教区の一一致と再生に向けていけるように、その意識化に努めています。一緒に集まって聖書を勉強したり、祈ったりすること、教区または小教区の皆さんと共に典札に与ること、声を合わせて賛美の歌を歌うことなどの交わりを通して私たちは同じ方向に向かっていきます。



講座「子育ての父母とともに」

集まることには、わたしもその中にいるのである。(マタイ18・20)と約束してくださいました。イエスを中心とする交わりの体験を多くすることが、教会と心を一つにし、一致した姿勢で教区が目指す方向に、より深く参加できるようにあります。その実現に向かって皆様の中から提案がありましたら「生涯養成委員会」に是非声をかけてください。

家庭祭壇 祈りと安らぎの空間
家族揃って祈れる場所がご家庭におありでしょうか?
8.5万円~各種取り揃えておりますので、お気軽にご相談ください。カタログを無料にて郵送致します
TEL 0972-63-4187
担当: ローザ平林美穂子
TEL 875-0041
大分県臼杵市壺屋町三組 山本鳳凰堂

私たちは、自分を創造しようとする子どもをまなび、護りましょう
暁の星学園
鳴門聖母幼稚園 高知聖母幼稚園
阿南聖母幼稚園 海の星幼稚園

学校法人 ロザリオ学園 '10年度入園児募集中
URL http://www.rosario.ac.jp/
海の星幼稚園
〒791-8076 松山市会津町 6-1 TEL089-951-1717
道後聖母幼稚園
〒790-0848 松山市道後喜多町 7-25 TEL089-924-2442
天使幼稚園
〒799-3113 伊予市米湊 756 TEL089-982-0503
若葉幼稚園
〒794-0028 今治市北宝来町 1-2-1 TEL0898-22-2063
愛光幼稚園
〒792-0011 新居浜市西原町 1-4-6 TEL0897-32-3442
西条聖マリア幼稚園
〒793-0030 西条市大町 716-1 TEL0897-55-2497
八幡浜聖母幼稚園
〒796-0037 八幡浜市昭和通 1182-7 TEL0894-24-4888
愛和聖母幼稚園
〒798-0060 宇和島市丸之内 1-4-18 TEL0895-22-1048

医療のともしび (17)

小児科の祈り

医者になりたての頃、不十分な知識と経験のない自分が治療と... 顔だけは不安を与えないようにとニコニコして、冷や汗をかくほどドキドキしながら、子供の胸に聴診器をあて、耳は心臓の音を聞き、心のなかで「神様、私を医者にして下さい。」と祈りました。

子供の病気は急変しやすく、あっという間に悪化してしまいます。「保育器の赤ちゃんが無呼吸を起こし真黒です。」、「昼間に診察した患者さんが、夜になってケイレンをおこしました。」...とといった電話が毎晩のようにかかってきました。

言葉でした。病気の子供と関わりながら、この世に病気がある意味をいつも考えています。病気になることで、元気な肉体の恵みに気付きます。そして、病気である時をどのように生きるかによって、人生の意味が違って来よう。パーキンソン病で寝たきりのフィリピン人の叔母に、「I love you. I always pray for you. (あなたを愛し、いつもあなたのために祈っています。)」とふるえる手で抱きしめられた時、やっと歩けるようになった障害の子が運動会でゴールするのを喜んでいる家族の姿を見てそれまでの苦悩を思う時、逆転の喜びを感じます。

愛媛県南端 愛南町 岡沢クリニック 岡澤朋子

神はそれを見てよしとされた

第三十五回高松教区教会学校教師研修会は、四国四県から二十名が参加して八月二十二日(土)二十三日(日)に塩江にあるヴィラ塩江で開催されました。

マは「神はそれを見てよしとされた」でした。まず最初に郊外の静かな自然の中で、静思のひとときを持ちました。私たちが預かっている子供一人一人の顔と名前を思いながら、すべてを神様に委ねて祈った静かな体験でした。シスター・メリー・ギリスを講師にお迎えした今年のテーマは「神はそれを見てよしとされた」でした。まず最初に郊外の静かな自然の中で、静思のひとときを持ちました。私たちが預かっている子供一人一人の顔と名前を思いながら、すべてを神様に委ねて祈った静かな体験でした。

桜町教会学校リーダー 谷本千佳代



神と出会う イエス・キリストと出会う 自分と出会う

カトリック通信講座 オリエンズ宗教研究所

わかりやすく書かれたテキストを読み、解答はがきの設問(3~4問)に答えを書き込んでご返送いただく方法で通信を行います。キリスト教を知りたい、学びたいと希望される方に最適です。

どなたでも、いつからでも、どの講座でも、ご自分のペースでご受講いただけます。「幸せな結婚」は結婚準備講座としてもご活用いただけます。

<全7講座>

T001 キリスト教とは T002 聖書入門〔I〕 T003 キリスト教入門 T004 神・発見の手引 T005 聖書入門〔II〕 T006 幸せな結婚 T007 生きること・死ぬこと

受講料 T001~T004 4500円(教材費・税込) T005~T007 5000円(教材費・税込)

<お申込み方法>

郵便局に備え付けの振替用紙にご希望の講座名・講座番号(T001~T007)をご記入のうえ、受講料を下記にお振込みください。

振替口座番号: 00170-2-84745 加入者名: オリエンズ宗教研究所

詳しくはホームページ (http://www.oriens.or.jp/)、通信講座の携帯サイト (http://www.oriens.or.jp/mobile/)、パンフレットをご覧ください。(ご希望の方にはパンフレットをお送りいたします)

<お問い合わせ・お申し込み>

オリエンズ宗教研究所 カトリック通信講座 Tel: 03-3322-7601 〒156-0043 東京都世田谷区松原2-28-5 Fax: 03-3325-5322

主な司教日程

- 11月 1日(日)~2日(月) 平戸講演・生月ガスパル祭 3日(火) 鳴門教会創立50周年記念ミサ 6日(金)~7日(土) 東北カトリック学校研修会 8日(日) 郡中教会堅信式 13日(金) カトリック老人施設研修会(坂出) 中国、四国宗教者研修会(松山) 15日(日) 三本松教会創立50周年、堅信式 17日(火)~19日(木) 日韓司教交流会(大阪) 19日(木)~20日(金) マリア会研修会 20日(金) 宣教司教評議会役員会13:00 21日(土)~12月1日(日) ローマ感謝巡礼 12月 5日(土) マルチン病院創立60周年 6日(日) 西宮カルメル会誓願式 10日(木)~13日(日) 東北塾会議(盛岡) 16日(水) 神学校委員会(福岡) 20日(日) 講演会「結城神父について」(長崎:大浦) 23日(水) 青少年司牧委員会主催クリスマス会

教区スケジュール

- 11月 1日(日) 諸聖人 2日(月) 死者の日 3日(火) 鳴門教会創立50周年 文化の日 8日(日) 年間第32主日 9日(月) ラテラン教会献堂 10日(火) 司教評議会 10:00 14日(土)~15日(日) 青年の集い 15日(日) 年間第33主日(~22日:聖週間) 三本松教会創立50周年:堅信式 18日(水) 朝禱会 6:30 20日(金) 宣教司教評議会役員会 13:00 21日(土)~22日(日) 教区会計説明会(松山・高松) 22日(日) 王であるキリスト 23日(月) 勤労感謝の日 29日(日) 待降節第1主日 12月 1日(火) 司教評議会 10:00 3日(木) フランシスコ・ザビエル溝部司教霊名の祝日 6日(日) 待降節第2主日「宣教司教評議会」 8日(火) 無原罪の聖母マリア 13日(日) 待降節第3主日 16日(水) 朝禱会 6:30 20日(日) 待降節第4主日 23日(水) 天皇誕生日 24日(木) クリスマスイブ 25日(金) 主の降誕 26日(土) カトリック会館大掃除 27日(日) 聖家族

新刊書籍紹介

■ サムライたちの殉教



「ここで死ぬ者は、信仰のために生命を捨てる身分の高い者であるから、みんな土下座するように」~雪降りしきる米沢の地で、信仰を証しするために散った53人の殉教録 神保亮 絵、筒井義之 文 千原通明 訳 ¥2100 A4変形版上製 90ページ ドン・ボスコ社刊

■ ミサの前に読む聖人伝



ミサにより良くあずかるために、また聖人の模範にならば、彼らに近づく恵みを得るために、ミサの前の数分間で読み、あるいは聞かせるために編纂された、分かりやすい聖人伝記 C. パリヨヌエボ著 ¥2310 B6判並製 396ページ サンパウロ刊

■ 病めるときも ~病と向き合うすべての人へ



病めるときも、病めるときこそ、私は愛したい、忠実でありたい。神に對して、隣人に対して。病の床にある人、看病し支える人への励ましのメッセージ。 ¥105 A5判並製 32ページ ドン・ボスコ社刊

書籍のお求めは、松山教会マリア書院、桜町教会書院へどうぞ

「人間にとって一番大切なものは心を育てることである」

一創立者 聖マリ・ウージェニーのこぼれ 学校法人 高松聖母被昇天学院

マリア幼稚園

香川県高松市多肥下町14番地3 TEL 087-867-7303



聖マルチン病院

薬剤師・看護師 (募集) 随時募集しています。聖マルチン病院で専門職を發揮しませんか 下記にご連絡下さい。(総務課) 0877-46-5195

